

# 園長だより

2023年(令和5年)5月29日  
道上幼稚園長  
第2号

幼稚園に、ある絵本が届きました。「ひなタウンへようこそ」です。渡していただく時、「この絵本は福山市立坪生幼稚園に通っていたお子さんが書かれた絵本なんですよ。」と言われ、早速開いてみると子どもたちの大好きないろんな乗り物の絵が、とってもカラフルに描かれていました。



おわりのところに、こんな紹介が添えられていました。

【ひなた】 中学1年生の男の子。(現在は2年生らしいです。)知的障害のある自閉症っ子。小6の秋から突然乗り物の絵を描き始める。パハリンアート協会所属の障害者アーティスト。

【ひなた母のコメント】

親バカで始めたインスタでしたが、思いもよらず多くの方に応援していただき、美術館に絵を飾っていただいたり、絵本を出版させていただいたりと夢のような半年でした。みなさんへの感謝の気持ちを忘れず、これからもひなたの一番の伴走者でありたいと思います。

【脚本家 しょうじあいかささんより】重症心身障碍児を含む3児の母で、絵本作家はじめてひなたくんのイラストを拝見したのは、インスタでした。初見の印象は、とにかくかわいい！ひなたくんの描く車たちはみんな個性があって、ひとつひとつのイラストにストーリーがあるのが感じ取れました。

お母さんのコメントの「親バカで始めた」「これからもひなたの一番の伴走者でありたい」の言葉に、お母さんはひなたくんの一番の理解者なんだなと感じます。きっとひなたくんは、自分なりに成長していくことが保障された空間にいて、自分のやりたいことが自らできるタイミングででき始めたことが、この絵本につながったのではないかなと思いました。これは言うのは簡単ですが、「子どもを信じて待つ」ということはなかなか難しいと実感しています。幼稚園でも子どもが本当は自分でできることなのに、ついつい待てず言ってしまふ、やってしまうということがよくあります。じゃあ待ってればいいのかというと、そうでもありません。子どもが自分からやってみたいと思えるきっかけをつくるのは、やはりおとなの役目です。「こんなことをやりたそうだから、こんなものを用意してみよう」とやってみても、子どもはやろうとしなかったということもしばしばです。そういう時は、「今はちがうんだな」と考え、またやりたそうなることを用意していくという感じです。やりたいことにハマると、子どもは夢中になって遊びます。道上幼稚園では、「じっくり、ゆったり、たっぷり遊べる」ようにゆるやかなカリキュラムの中で保育することを大切にしています。

**「遊び」に没頭しているうちに結果として学んでいのです！**

**絵本はるんるんコーナーの所に置いてあります！お手に取ってどうぞ！**